

平成22年度 附属図書館年度計画

平成22年1月18日
名古屋大学附属図書館

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- K1-1 中央図書館、分館、部局図書室が相互に連携し、留学生に英語基本図書を提供する。
- K1-2 パスファインダー共同作成支援システムによりパスファインダー英語版の作成を進める。
- K1-3 留学生の図書館利用に資するため、ガイドシート19点を学内文書の英文化計画により英語化する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- K2-1 ラーニング・commonsを整備し、学生のさまざまな学習形態に対応した場とするため、学生の利用実態を観察し把握する。
- K2-2 中央図書館と部局図書室とが連携した情報リテラシー教育を行うため、部局図書室の実態を把握し、話し合いの場をもつ。
- K2-3 全学の図書館員によるパスファインダー作成連絡会を設置し、作成体制を整備する。高等教育研究センターや教養教育開発推進室(仮)で進めるライティング支援との連携をはかる。

(3) 学生の支援に関する目標

- K3-1 ラーニングcommonsのサポートスタッフに、情報リテラシー、ライティング、ITC等のトレーニングを適宜行い、人的サポート体制を確立する。
- K3-2 教育内容等と連携した図書館資料の利用状況について、関係教員へフィードバックする効果的・効率的な方法を検討する。
- K4-1 教員にオーダーメイド講習会を広く周知し、学生の参加を促してもらい、実施回数を増やす。また、指導教員と連絡をとり講習会の内容を充実させる。
- K4-2 ラーニング・commonsに総合サポートカウンターを設置し、ピアサポート、学習・IT相談、論文指導など学生への各種サポートを行う。
- K4-3 学生のニーズに合った資料を提供するため、蔵書整備アドバイザー制度による教員との連携を強化し、また中央図書館、分館、部局図書室の連携により、リクエストサービスによる選書数を増加させる。
- K4-4 英語授業に対応したパスファインダーを容易に作成できるようテンプレートを整備する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準、成果及び実施体制等に関する目標

- K5-1 電子ジャーナル及びデータベースの持続的かつ効果的な整備のため、全学的な経費負担モデルの検討を開始する。
- K5-2 高木家文書が重要文化財指定を受けるための準備を完了させる。
- K5-3 準貴重書(神宮皇学館文庫、岡谷文庫、森本文庫)・マイクロ資料などのコレクションについて、目録公開を順次進め、研究への活用を促す。
- K5-4 ERMS(電子情報資源管理システム)のデータにより蔵書検索の機能を強化し、電子的資料へのアクセスを改善する。
- K5-5 学内ILLについてe-DDSなど電子的デリバリーを検討する。
- K6-1 電子ジャーナル、データベース等の電子情報資源を有効活用するため、利用者の要求にあわせた講習会を企画、実施する。
- K6-2 研究者の学術認証フェデレーション(UPKI-Federation)への参加を促進し、電子ジャーナル等の学術サービスへのリモートアクセスの利便性を高める。
- K7-1 学位論文のカレント分は、全学の登録制度化に向けた整備を行い、申請時の登録率の向上をはかる。学位論文や科学研究費報告書の過去分は、リストアップ済のもの許諾確認作業を完了させ、リポジトリに搭載・発信する。
- K7-2 紀要の一覧ページを設けるなど、紀要の発信機能の強化を図る。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

- K8-1 特別展を春秋2回開催し、関連した講演会を開催する。
- K8-2 「図書館友の会」について、新たな企画を検討し、会員数拡大を図る。

K9 全学の留学生支援プログラムの中で、資料整備を行うとともに、リサーチ・学習支援、通訳支援のための体制を整備する。

K10 海外 I L L のニーズを把握し、十分に対応がとれていない国の I L L 対応可能な機関を調査す

K11 リニューアル後の図書館ウェブサイトの英語化を、G 3 0 専任職員の協力を得て進める。

K12 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

K13 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

K14 附属図書館の意思決定方法の改善のため、業務会議の見直しに着手する。

K15 ハイブリッド・ライブラリーの実現に向けた研究開発の今後のあり方を検討する。

K16 効率的な業務体制の構築と、図書系専門職の計画的育成のため、新たな組織運営システムのあり方を検討する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

K17 図書館職員の専門的能力開発のためのプログラムを作成し、次世代図書系職員の目的的・計画的育成に着手する。

K18-1 平成21年度に行った図書館システム更新について問題点を整理するとともに、業務システム検討委員会の構成を見直す。

K18-2 図書館業務の点検・見直し・改善のための実施体制を検討する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部資金、寄附金その他の自己収入に関する目標

K19 外部資金獲得のための申請体制を整備する。

K20 国内外の事例を調査し、寄附金収入を得るための方策を検討する。

2 経費の抑制に関する目標

K21 資料調達方式や資料購入先の見直しに関して、国内大学図書館の事例調査と、契約方式の検討を行う。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

K22-1 不用図書を除却後、ホームカミングデイ「本のリユース市」で販売し、収益金により学生用図書の充実を図る。

K22-2 附属図書館 ESCO 事業とも関連した、中央図書館書庫内の環境管理の検証を進め、防カビ等の必要な対策を実施する。

K22-3 貴重書（伊藤圭介文庫）の電子化を40%まで進める。また、準貴重書は神宮皇学館文庫の希少なものから選択的に電子化する。

K22-4 和古書は、神宮皇学館文庫のうち整理準備のできた約1800点（約4300冊）を対象とし、今後の整理手法・優先順位を確立する。漢籍は、岡谷文庫・森本文庫の作業完了をめざす。マイクロ資料の目録公開も順次進め、特殊資料へのアクセスを改善する。今後6年で高度遡及入力を完成させるため、22年度の整理実績を踏まえ、部局図書室所在資料も含めた実行計画を立てる。

K22-5 「愛知県図書館定期便実証実験」を介しての公共図書館への貸出図書について、貸出期間の延長を検討する。

K22-6 貴重書・準貴重書等の保存環境の改善計画を作成する。

K23 中央図書館2階ラウンジの改修により、留学生と日本人学生とが交流できる快適な空間を整備す

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 自己点検・評価に関する目標

K24 定期的な自己点検評価の実施方法を検討する。

K25-1 図書館需要を把握するため、統計データをもとに利用動態の分析を行う。
K25-2 外部評価の実施方法を検討する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

K26-1 リポジトリによる発信機能を強化するため、システム更新について予算要求する。
K26-2 博士学位論文については、部局担当者、学内関係部署と連携し、登録率の向上をはかる。

K27 図書館ウェブサイトの構造を見直し、リニューアルを行う。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備等に関する目標

K28-1 蔵書の増加に対応した新たな収容スペースの確保のため、具体的な検討を始める。
K28-2 中央図書館2階ラーニング・commonsの利用状況調査を実施し、分館、部局図書室における教育学習環境の改善に活かす。

K29 附属図書館ESCO事業による省エネルギー検証を進める。

2 安全管理に関する目標

K30-1 中央図書館の安全な利用環境の確保のため、計画的な改修を実施する。
K30-2 附属図書館非常時行動マニュアルについて、名古屋大学の規程等に則した見直しを実施する。

K31-1 名古屋大学地震防災訓練時に、中央図書館利用者の避難誘導訓練を行う。
K31-2 附属図書館非常時行動マニュアルを改訂し、図書館職員の研修を実施する。

3 法令遵守に関する目標

K32-1 附属図書館情報セキュリティガイドラインを整備する。
K32-2 図書系職員初任職員研修において、情報セキュリティガイドラインの解説を行う。

K33 個人情報の適正な取扱いのためのガイドラインを作成する。